

## B-56 接着テープによる接合部分の強度について

山梨大教育

矢崎清子

— 織糸密度と接合型式の影響 —

目的 被着布の織糸密度と、テープの接合型式とが、接合部分の強度にどのように影響するかを究めることを目的として、基礎的な実験を行なった。

方法 接合素材として、ホットメルト接着用ナイロン（特殊共重合ポリアミド—フィルム状）を用い、被着布は base に市販の綿ブロード40番とタテ方向に用い、これに、ヨコ糸密度の異なるレーヨン織物（タテ糸：25D 紐ワラ糸 260本/3.8cm, ヨコ糸 100D 紐ワラ糸 80, 90, 100, 110, 120本/3.8cm）を、下記4種類の型式により、タテ・ヨコ方向に接合させた試料につき、オートグラフ P100型を使用して、ブロード側を常に上部のチャックにつかませて、引張強度を記録する。圧着には小型プレス機を使用。圧着・引張条件は前回までと同様である。接合型式：1) 張り合わせ、2) 片端折り重ね合わせ、3) 重ね合わせ、4) 両端折り重ね合わせ

結果 ① 密度の影響は、接合型式により一様ではない。型式1)では、織糸密度間にも、接着の方向間にも有意差は認められない。型式2)~4)では、接着の方向による差も見られ、タテ方向では、90本と100本との間に1%水準で、ヨコ方向では100本と110本との間に5%水準で有意差が見られた。② 型式3)の強度は最も強く、破断に至るほどの引張りでも、接合部分には変化は見られない。③ 型式2)と4)とは、接合部分の物性と、接着テープの幅との関係で、接着力に大きな開きが見られ、特にそのバラツキは、型式4)において著しい。